

Q.

「藤田組通り」の名前の由来は何ですか？

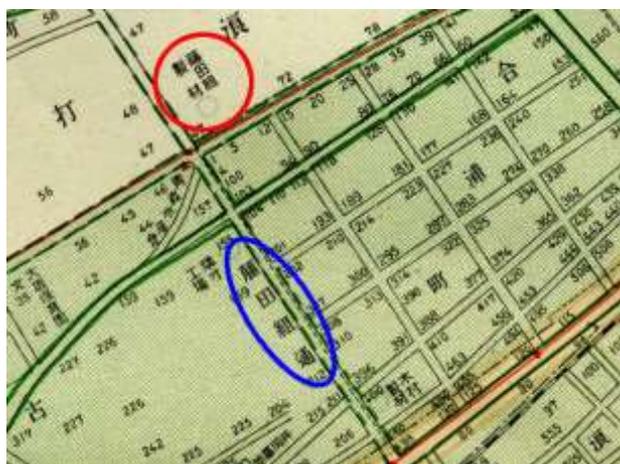
A.

名前の由来となったのは、大阪の藤田組という企業が設置した青森電鍊所という施設（場所は現セブン-イレブン青森港町3丁目店附近）です。

藤田組は藤田伝三郎が明治14年（1881）に設立し、秋田県の小坂鉦山の経営や岡山県児島湾における干拓事業などで発展しました。

青森電鍊所は電気炉を用いて合金鉄（鉄を生産する過程で必要な副原料）を生産する目的で設置され、大正7年（1918）2月に生産を開始しました。しかし、同年11月に第一次世界大戦が終結し、需要の減少が見込まれたことなどから、大正9年に閉鎖されました。電鍊所の跡には大正8年10月に設立した藤田組製材所が残りました。

国道からもよく見えたという青森電鍊所の建物は、藤田組製材所になってからも一部が残っており、国道を海手に曲がる道路の目印の役割を果たしていたと思われます。そのため、道路が「藤田組のある通り」などと呼ばれるようになり、やがて「藤田組通り」という呼び名が定着したと考えられます。



「都市計画 青森市街全図」（昭和11年 青森市役所）

〈参考文献〉

島口天「青森市「藤田組通り」の名称由来」（『青森県立郷土館研究紀要』第36号）

島口天「大正時代の藤田組青森電鍊所と東岳石灰岩鉦山」（『青森県立郷土館研究紀要』第38号）

〈関連メールマガジン〉

「あおもり歴史トリビア」第119号（2014年8月8日配信）